平成 29 年霞ヶ浦学講座第 1 講「世界湖沼会議とは，どんな会議？」　結果報告
平成 29 年 4 月 23 日（日）13:30－15:30
場所：霞ヶ浦環境科学センター多目的ホール
講師：沼澤篤（霞ケ浦環境科学センター嘱託），受講者：53 名
要旨：第 17 回世界湖沼会議（会期：平成 30 年 10 月 15 日～19 日）が再び霞ヶ浦で開催されます。世界湖沼会議とはどんな会議でしょうか。第 1 回は 1984 年に琵琶湖畔大津市で開催され，「湖は流域の人間活動を映す鏡である」という有名な言葉からなる「琵琶湖宣言」が採択されました。その後，世界湖沼会議は 2 年に 1 回，(公財) 国際湖沼環境委員会 (ILEC) と開催国の共催で，世界各地持ち回りで開催されてきました。第 6 回会議(1995 年)は，土浦市，つくば市で開催され，8200 人が参加し，「湖の音に耳を傾けよう」と呼びかけた「霞ヶ浦宣言」が採択されました。また，この会議を記念して「いばらき霞ヶ浦賞」が創設され，世界中の優れた湖沼研究者に授与され，茨城県の国際貢献の一つとなっています。このように日本発祥の世界湖沼会議が継続開催されてきた理由は何でしょうか。

実は湖沼は貴重な淡水資源、生物多様性，豊かな水産物，心を癒す景観などをもたらす地球上の宝と言えますが，危機的な状況にある湖沼も少なくありません。富栄養化（アオコ発生など），汚染（重金属，化学物質など），生物多様性低下（水産等への影響），大量利水による水位変化，酸性化，堆積物（流域の森林破壊，農地化などによる土壌流出），地球温暖化と気候変動の影響等です。良好な水質の淡水が不足すると，健康で文化的な生活，農業など各種産業に深刻な影響をもたらし，時には紛争の誘因にもなります。

こうした状況で世界湖沼会議は，湖沼に関する理解と認識を深め，世界中の湖沼の環境問題の改善に英知と経験を集める場として，大きな意義があります。参加者は研究者、行政担当者、市民、企業，団体等で，パートナーシップ形成，交流，情報交換を通じて，他の湖沼の事例を学ぶことができます。それは「井の中の蛙」にならず，世界の湖を知って、特に霞ヶ浦とよく似た海跡湖（潟湖）の情報や，行政，市民活動の取り組みを学ぶ，またとない好機でもあります。流域管理では，ILEC が提唱する ILBM（統合的湖沼流域管理）が日本の「湖沼水質保全特別措置法」とそれに基づく「霞ヶ浦に係る湖沼水質保全計画」に反映されていますが，さらに進展した活動が期待されています。

しかし，世界湖沼会議では難しい課題もあります。外国での開催では市民参加が少ない，市民による活動報告が少ない，人文・社会・教育・歴史・経済分野の発表が少ない，研究者中心の会議になりがち等です。霞ヶ浦で再び開催される機会に，市民による発表（市民活動事例等），市民の参加，市民によるサポート体制構築の促進が必要です。また生徒・学生，教師の参加（環境学習の事例等）も期待されます。それには準備段階での市民活動の活発化や啓発による意識向上が重要です。霞ヶ浦での世界湖沼会議開催は，市民活動の活性化によって霞ヶ浦への注目度がアップし，霞ヶ浦への郷土愛が形成され，市民による環境科学が発展することで，目に見えるかたちで，水質や生態系をふくむ霞ヶ浦の環境改善へ結びつけるチャンスと位置づけ，様々な立場で盛り上げていくことが大切です。